**東十八間櫓**

東十八間櫓（「東にある長さ18間の櫓」）は、17世紀初頭に建てられた木造の櫓です。「間」とは昔の単位で、およそ1.82メートルに相当します。不思議なことに、この櫓の長さが34メートルなのに対し、隣の北十八間櫓（「北にある長さ18間の櫓」）は全長40メートルもありました。

2016年の地震では、櫓とその下の石垣が倒壊し、下の社務所に落下しました。現在、この場所から回収された1900個の石材やその他の構造材が、整理・目録化した上で保管され、修復工事の開始を待っています。